

報 医 世 々



目 次

- 巻頭言 「医師会って何？」
気仙医師会 会長 滝 田 有… 2
- 理事会報告…………… 3
 - 第1回理事会報告…………… 3
 - 臨時理事会報告…………… 4
 - 平成24年度定時総会報告…………… 4
 - 第2回理事会報告…………… 5
- 孤掌不鳴 お医者さまにも「気仙地域におけるロタウィ
ルスワクチン無料接種事業について」
岩手県立大船渡病院 副院長 瀧 向 透… 8
- 随 想
「事前予測の甘さ」岩手県立高田病院
島 貫 政 昭… 9
- 「いっそうの医療連携を」
岩手県立大船渡病院 中 野 達 也… 11
- 関係機関の窓
「大災害と医療」 住田町長 多 田 欣 一… 12
- 事務局日記…………… 13
- 編集後記…………… 14
- 表紙のことは…………… 14



第 1 2 2 号
2012. 7. 20

気 仙 医 師 会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目 6 - 1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

気仙医師会広報部 発行 平成24年7月20日 製作:村田プリントサービス

巻

頭

言



「医師会って何？」…

気仙医師会 会長

滝 田 有

去る5月23日、当医師会の定時総会が行われた。

A会員の会費は大幅に値上げされる事が決定した。

法人法の改定によって社団法人の認可のために明朗な会計が必要となったからである。従来当会は実質赤字のところを、繰越金や、財政基金からの繰入れ金によって凌いできた。しかし今後は単年度の収支で利益が出るように予算を組まねばならない。しかも公益性の高い事業計画も立てねばならない。その財源としてのやむを得ぬ処置としての会費値上げであった。諸兄のご理解を頂きたい。

果たして医師会とはそこまでして維持すべき存在なのだろうか？

福島県立大野病院事件はご記憶の方も多いであろう。「医療崩壊」の序曲となった事件だ。しかし、被告人であったK先生が無罪を勝ち取った後、日本医師会へ礼を言いに行った事実は存外知られていない。彼が官憲に身柄拘束された直後から、大きな声で逮捕の不当性を訴えたのは医師会であったのを諸兄はご存じだろうか。単に仲間を庇ったのではなく、同一職域で医療の何たるかを認識した集団として、この逮捕の不当性が明らかであることを医師会は主張し、K先生を全面的に弁護した。

医師会とは決して「開業医の利益保護団体」ではない。諸兄は肝に銘じてほしい。近年のマスメディアの情報操作によって医師内にもそういう誤解が広まっているのは残念である。

わが気仙は昨年3月の大津波により大打撃を受けた。ただでさえ先細りであった医療資源が枯渇へのスピードを速めてしまった。

今こそ病診・診療間で連携し効率の良い医療を住民に提供しなければならない。そのために品格ある会員が結集して事に当たらねばならない。

諸兄にはぜひ力を貸していただきたい。

孤 掌 不 鳴

気仙地域におけるロタウイルス ワクチン無料接種事業について

岩手県立大船渡病院 副院長

漕 向 透

東日本大震災後、当地域が日本小児科学会からの小児医療支援を受けた事より学会内に気仙地区小児保健支援プロジェクトワーキンググループ（委員長：中村安秀大阪大学教授、以下WG）が立ち上がり、当地域の小児医療体制や子育て環境の再構築に向けて話し合いの場が作られました。WGの一員として小生や県立高田病院の大木先生も加わり、専門家や地域外の人たちの意見を聞きながら、地域の復旧、復興に関われることは、とても貴重な経験となっています。

本年1月からWGが企画して、ロタウイルスワクチン無料接種事業が全国に先駆けて当地域で開始されました。ロタウイルス感染症は生活環境が悪化した被災地では大流行することが憂慮されましたが、ワクチン費用が高額の為補助なしでは接種し難いのが現状です。そこで今回は気仙地域ワクチン接種基金を立ち上げ、NPO法人HANDS、赤ちゃん成育ネットワーク、認定NPO法人世界の子どものワクチンを日本委員会、グラクソ・スミスクライン社の協力を得て行われています。ロタウイルスワクチンは子ども達をロタウイル

ス胃腸炎の重症化から守るだけでなく、保護者に対する子育て支援ともなり大変意義のある事業です。現在推定接種率80%と高い水準にありますが、これが維持できれば当地域からロタウイルス感染症が激減し、保護者や医療機関の負担が減ることが期待されます。今後国の定期接種となることが検討されていますが、まだまだ先と思われます。保護者のニーズが高いことは接種率が示していますので、支援が終了となっても費用助成が継続できるように行政に提案していきたいと考えていますので、その際は皆様のご協力をお願い致します。







事前予測の甘さ

岩手県立高田病院

島 貫 政 昭

人の考えには、稀な事は自分には起きない、悪いことは起こりようがないと、どうしても危険なことから逃れようとする正常化思考があります。誰でも、起きそうもない事に心を患わされたくなく、ましてや事前に対策を立てよと言われても時間的・金銭的な目先のコストパフォーマンスを考えれば、正常化思考に陥りざるを得ないでしょう。

そうは言いながらも今回の東日本大震災の津波の被害に遭ってみれば、なぜ予測できなかったのかと思わざるを得ません。チリ津波でもここまでしか来なかった、防潮堤がその後にできたから跳ね返せる、もしそこを乗り越えても防潮堤のある分減災されるのであまり心配しなくてよい、などと考える人がほとんどであったと思うし自分もその様に思っていた。診察室で津波に話題が及ぶことがあるが、患者さんに聞いても予測できたという人にはまだ巡りあっていない。

第一点として、チリ津波がここまでしか来なかったという考えが本当に正しいのかを考えてみたい。確かに昭和35年の津波は、よもやと思う地球の反対側で起きた地震でも大きな被害をもたらしたのだが、あれだけ大きなものでもこれだけという考えでなく、こんな

遠くまで来てもこれだけの被害を出すのだから、それだけの地震が近くで起きたらどうなるのかと考えるべきであった。

しかも日本は地震大国であるのだから尚更でしょう。あそこまでしか来なかったと言うのを聞いて、あれだけの大地震での津波でもその位で収まってしまうのかと安易に考えてしまっていた自分が恥ずかしい。

第二点に避難場所の位置です。三陸の国道45号線を行くと、そこかしこに津波被害がここからあるいはここまでとの道路標識が立っていました。この標識の上まで津波が来たところもあればそうでなかったところもあります。国道を通る車にこの標識がどれだけ役に立ったかは不明ですが、地域住民に対しての避難場所が少なくともその標識が示す標高のレベルよりも上に作っていたら助かった命が多かったでしょう。いやそこまで避難して来た人は、そこから二次避難しなければならなかったとしても大多数は助かったでしょう。

ではどうして国道はそれなりの指針を出せたが、地域の防災計画では出来なかったのでしょうか。むしろ何故火事や地震そのものの対策だけで津波の対策らしい指針が出せなかったのでしょうか。地域の担当者も

住民も、国道の標識は見ているのだから、どうしてそれを参考にしなかったのか、或いはそんな大げさな警告は不安をあおるだけで無駄だから外せ(?)と言えなかったのか、残念です。

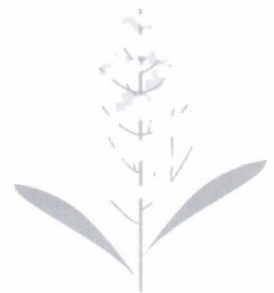
思うに自分の領域での防災的発想をただで、地区の総合的防災までには至らなかったのでしょう。国道の管理者と地区の計画者がもっと意見の交換をしてより良い総合計画が出せれば最高だったでしょう。

防災の講演会で専門家にどうして道路標識が示す高さを参考にした避難所を作れなかったのかと質問したら、その人は避難所が遠くなってしまうと防災訓練の時に人が集まらなくなるからだと言っていました。

今回の考えは、自分たち自身にも考えの甘さがあり、その甘さが厳しい忠告を受け入れ難いものにしていて悪いことは起こってほしくない・起こらないと安直に安定思考をして、予想外だったので助かった人も亡くなった人も紙一重の偶然が支配した部分が多かったものと思う。自分は、病院の前に座っていた老婦人を無理に3階まで引き上げたらその時津波が病院敷地を覆いはじめていた、そして屋上に逃げろと言う声を聴い

たので更に4階の屋上への階段まで引き上げて上に避難する人に託した。ご本人は助けてもらったと言っていたが、自分としてはこの老婦人に助けられたものとあの時から思っている。あと十数秒遅かったら婦人とともに水に流されたり、婦人に焦点を当てなかったら何をしていたかどうなっていたか分からない。いかに場当たり的な行動しかなかった事か。

今回の災害を、自分の観点から振り返ってみた。こうすべきだったはどうでもよい。これからの指針にどう生かせるかが、各自含めた日本全体の問題でしょう。



みんなの いわて を 医 協 ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル **0120-054-222**

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyo>

E-mail isikyo@rose.ocn.ne.jp



いわて医師協同組合

IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION

〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内



いっそうの医療連携を

岩手県立大船渡病院

中 野 達 也

震災のあった3月11日、私は県立中央病院で食道がんの手術をしていた。あまりの振動に天井の无影灯が落ちてきはしないかと見上げながら揺れがおさまるのを待った。停電となったが、非常用電源で手術は継続できた。再建の途中だったので、手術を再開した。断続的に揺れが続く中、副院長がまわってきて、施行中の手術は続けるようにとの指示があった。それから2時間で手術を終えたが、周囲から知らされるまで津波の被害を知る由もなかった。数日間は患者搬送に対応するため院内待機となり、予定手術は延期となった。

2週間後、大船渡病院を訪れた。4月から転勤となるからである。病院までの道路は支援のための他県ナンバーの車が多く行き交い時間がかかったが、通行止めはなかった。しかし、市街地を通ってみると、道路わきに漁船が打ちあげられており、高田市内に通じる道路がなくなっており、愕然とした。そんな状況下で黙々と奮闘された医師、職員の方々に敬意を表したい。

4月に大船渡病院に移った。多少の不便はあったが、病院の機能はほぼ正常になっていた。よく、被災地の病院に移って大変ですねと言われたが、むしろ大変な時期にいなかったことを負い目に感じていた。

それから1年以上経過した。病院内で立ち働いているとつい震災のことを忘れがちであるが、建物がところどころにしかない街をみると、これからどのように

して復興していくのが気がかりだ。神戸の場合と違って、片づけて建て直せばいいわけではないので、万人が納得する対策はあり得ないと思われる。いまだに不便な生活を強いられ、不安を抱えている人たちが少なくない状況で、自分たちに何ができるだろうか。望まれているのは医療の面で、より安心できる体制づくりであろう。そのためには、大船渡病院と気仙地区の医療機関のいっそうの連携が必要となると思われる。がん診療連携もこれから進められていく段階だ。お互いに協力し合い、地域の安心感を少しでも増すことができればと考える。

